

項目	自己評価	中・長期経営目標	短期経営目標	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況	改善方策	学校関係者評価書	学校関係者評価	
確かな学力	A	○全ての学年が取組む学力調査で全国平均値以上の学力を育成する	1. 基礎的な知識及び技能の定着 2. 子どもが「わかる・できる」授業の実践 3. 家庭と学校が連携して行う家庭学習のサイクル化、家庭学習の質の向上 4. 図書や新聞を活用した教育実践の充実	学力向上のための組織的な校内研修体制づくり	①児童に基礎的な知識及び技能の確かな定着 ②教職員が「めざす子ども像(能力・資質)」を共有し、それぞれがその目標に向かって努める	全国学力・学習状況調査・国語・算数ともに、標準学力調査・国語・算数ともに各学年の全領域が全国平均以上高知県学力定着状況調査の結果 4・5年生・国語・算数・理科ともに高知県平均以上	①「学力が上がっている」と強い肯定回答した児童(H26:46.6%→H27:63.0%) ②「授業はよく分かる」と強い肯定回答した児童(H26:47.7%→H27:64.4%) ③授業意図がわかるように「ねらいを明確にして授業を行う」は100%できている。 ④研究授業における授業評価(学んだことを活用しようと思った)3.66(4点満点)	きめ細かい指導や基本をしっかり抑えた授業に取り組むこと、また、より日々の実践に生かせる校内研修の取り組みが必要である。特にLDなど特別な教育的支援が必要な児童が増加しており、それに対応する指導の工夫や支援が必要となっている。	・昨年度の課題は十分に改善されている。 ・本年度の課題で学力向上の視点からは、どの学級も国語・算数とも全国平均値以上または同等で良好な結果を示している。各児童の学習意欲がすべての項目において、向上している。基礎・基本を中心とした確かな学力の定着した指導がなされている。先生方が子供達と目標に向かって進んでいる努力が見える。 ・次年度に向けての課題は、伝統ある学校で有り、改善方針に沿って充実発展を期待している。	S
				子どもにわかる授業づくり(授業づくりスタンダードの活用など)	①香美市授業スタンダードの授業実施 ②ユニバーサルデザインの視点にたった授業を意識し、行うことができる(ICT活用を含む)	生活・学習習慣アンケート・授業で「香美市授業スタンダード実施100%」学校評価アンケート(児童)授業がよくわかる90%以上(またはわからないの子どもの減少)	①授業スタンダードについては取り組んだが、教員の評価は88.2%と、100%の達成には至らなかった。 ②授業がよくわかると肯定的な回答をした児童はH27:93.2%でH26:91.7%より向上した。「よくわからない」と強い否定の児童もH26:2.1%→H27:0.7%と改善した	授業スタンダード確立と、より分かりやすい授業(UD授業)を意識した実践に努める。本年度の目標値を達成する。地域の人材を活用し、ステップアップタイムや長期休業中の学習会等を継続、充実していく。		
				学校全体で予習・復習(宿題)の質と量を高める取組	①家庭と連携した家庭学習のサイクル化を図る ②読書活動の充実(読書時間30分以上、各コンクール参加、図書や新聞を活用した授業を行う)	生活・学習習慣アンケート・「予習をしている」75%以上、「復習」は82%以上をめざす学校評価用アンケート・図書や新聞を活用した授業を行っている(教師用100%)、読書時間(朝読書を含む)1日30分以上・80%以上	予習を生かした授業や自主学習ノートへの取り組みなど、家庭学習への取り組みはH26:93.9%→H27:94.5%であるが強い肯定が+2.9P増加。 読書活動への取り組みでは、各種コンクールへの参加や授業への取り入れ、朝読書などには取り組むことができた。1日30分以上の読書への取り組みは不十分であった。新聞活用授業(100%)	家庭学習習慣の定着が十分でない児童もいるので、児童や家庭への声かけや加力学習などの取り組みが必要である。読書時間の確保については、学校での読書習慣だけでなく、家庭での読書時間も確保できるような取り組みを行うことが必要であると思われる。		
豊かな心	A	○夢や希望をもち、その実現を目指して努力する高い志や態度を育成する ○互いの違いや特性を理解し合い、協力してより良い生活をしようとする心や態度を育成する	1. 道徳授業の改善 2. 自己肯定感や規範意識の向上 3. 道徳実践力の向上 4. 温かな人間関係づくりの推進	①道徳の授業研究を計画的に行い、授業チェックシート等による検証を活用して授業改善を図る。 ②特別活動や総合的な学習との関連化を一層進め、高い志をもつ児童の育成と道徳実践力の向上を図る。 ③キッズチャレンジの実施(11月7日) ④夢・志を育てる講演会・音楽会等の開催 ⑤地域の豊かな教育資源を活用し、地域と協働して創る学び実践(香美市の豊かな教育資源の活用・家庭・学校支援地域本部との連携) ⑥児童理解のための校内支援委員会の定期開催(月曜日) ⑦温かな人間関係づくりのための取組の推進(自己理解、相互理解)	①高知県道徳意識調査結果「そう思う」「たいしたそう思う」の肯定的評価(H26)→H27 「道徳の勉強が好き」(89.5%)→75%以上「将来のためにも頑張りたいと思う」(92.3%)→85%以上「近所の人に会った時は挨拶している」(93%)→75%以上「自分には良いところがある」(81.8%)→75%以上「失敗をおそれないで挑戦している」(85.3%)→85%以上 ②児童に道徳実践力がついたと実感できる変化がみられる(児童が社会に働きかける姿が見られる等) ③「人の気持ちが分かる人間になりたい」85%・「近所の人に会った時はあいさつしていますか」75%以上・「学校のきまりを守っている」60%以上・「みんなが集まる場所では、他の人のことを考えて行動している」85%以上	①近所の人に挨拶できた89.2%、失敗を恐れないで挑戦している87.5%(+12.5P)自分には良いところがある目標75%以上(78.6%)キャリアアンケートの39項目中29項目において前年度より向上である。2項目だけが課題である。 ②道徳アンケートの8項目については「自分にはよいところがある」以外の7項目は目標達成した。(詳細は資料による) ③毎月20日には中学校と連携して「挨拶運動」、「地域美化活動」を行うことができた。地域の活動に参加している(H25→H27の変容+5.8P)	①道徳教育の推進の継続 ②地域美化活動など地域社会とつながる道徳実践力の取組の推進 ③キッズチャレンジなど土曜授業の推進 ④地域の豊かな教育資源の活用をし、地域と協働して創る学習の開発	・昨年度の課題は十分に改善されている。 ・本年度のキャリアアンケートの課題については39項目はほとんど達成している。道徳アンケートの8項目についても目標は達成している。中学校との連携の挨拶運動・地域美化活動にも取り組んでいる。支援の必要な児童について、きめ細やかな教育・支援の取り組みを実地している。地域と共に、講演会や演奏会等を実地し、児童の心を豊かにしている。 ・次年度にむけての課題も明確で適正であり、今後を期待している。	A	
				①「体力向上ハンドブック」の活用(ジャックナイフストレッチ等) ②外遊びの活性化への取組 ③学期ごとの始業前や業間体育週間の活性化	①体力向上ロードマップによる進捗管理ができた ②新・こうちの子も体力アップアクションプラン派遣事業の計画的な活用ができた ③地域・保護者への啓発ができた(学校便り等)	①体力結果についてはA評価の増加(特に高学年は高知県平均値以上)(低学年のD判定の増加)①ジャックナイフストレッチの効果があり、長座体全屈が3年生以上で平均値以上となった ②外遊びの活性化の取組ができた(5月:71.5%→10月:84.3%) テレビ・ゲームの時間が1時間以内(5月:50.2%→10月:57%) ②外部講師による指導はAKB活用は1件のみであるが、地域の外部講師に支援していただいた。バスケットボール、相撲等 ③地域・保護者への啓発については保健だより等で行った。(別紙のとおり)	①低学年の運動能力の向上 ②運動を通じての仲間づくりや運動の楽しさを実感させる取組の実践	・昨年度の課題の目標はおおむね達成されている。 ・本年度の体力向上の課題について、各学年とも、県平均を上回っている。ジャックナイフストレッチなど工夫した取り組みで効果を上げている。外遊びの活性化やテレビ・ゲームの時間を1時間以内も57%と向上している。健やかな体づくりの一環の地域、保護者への啓発についての保健だよりなどで効果を上げている。 ・地域以外の行事に積極的に参加を促したことが良かった。(相撲大会など) ・次年度にむけての課題も明確で適正であり、今後を期待している。		A
保護者地域との連携	A	○保護者や地域住民とともに子どもを育成する教育活動を推進する	1. 「よってたかって地域が育てる教育」香美市キャリア教育の実践を学校支援地域本部等と連携して行う(児童の活用力の育成) 2. 学校からの情報発信の工夫	①キッズチャレンジの実施(11月7日) ②夢・志を育てる講演会・音楽会等の開催 ③地域の豊かな教育資源を活用し、地域と協働して創る学び実践(香美市の豊かな教育資源の活用(家庭・学校支援地域本部との連携)) ・交通安全教室、スポーツテスト支援、読み聞かせ支援、児童活動支援 ・香美市ふるさと学習の地域に学習支援 ・香美市の豊かな教育資源を活かした教育実践の創造 ・家庭・地域への広報活動(マスコミ、ホームページ等)	①身近な人の生き方について考えることができた(キャリアアンケート数値) ②地域住民の参加があった ③各学年が地域と係わる教育実践ができた ④取組について学校だより等で発信できた	①児童の意識は3年前の調査値、1年前の調査値に対して向上している(39項目中29項目が向上) ②学習支援参加者の(のべ)(H27:252人→H28:303人)他校との連携教育の推進(舟入小、片地小)本校行事への地域家庭参加者の(のべ)(4回でのべ200人) ③各学年が様々な行事で地域と交流しながら学ぶことができた。物部川(4年)町の未来について考える(6年) ④ホームページの更新までには時間がかかったが、1月からは順次更新	①身近な人の生き方について考える機会の継続 ②社会とつながる教育課程の推進 ③各学年が地域と係わる教育実践の推進 ④取組についてホームページ、学校だより等で積極的に発信	・昨年度の課題は全てにおいて、目標を達成している。児童が積極的に地域と交流を行い学んでいる。 ・本年度の課題であるすべての取組内容の評価指標に基づいた内容が達成している。地域支援参加者がH26の252名に対して、H27は303名、それに学習支援として山田高校生も加わり、多くの支援があったことが伺えることは望ましいことである。学年ごとに行事を通じて、地域と交流しながら、学んでいる。 ・次年度にむけての課題も明確で適正であり、今後を期待している。	A	
				①自分の命を守るための安全確保のために必要なことを知り、自他の生命尊重を基にして生涯にわたって安全な生活を送ることができる力を養う	1. 自分の命を守りきる力の育成(行動力) 2. 知識を備え、正しく判断する力の育成(知識判断) 3. 地域社会とともに安全について考え、危機対応力の向上(心) 4. 食と健康、食と子どもの自立を関連させた教育の実践	①避難訓練(年3回以上、状況等を変えて) ②安全プログラム(各学年:年5～6時間以上) ③防災にかかわる体験学習の実施 ④お弁当の日の取組(講演会、お弁当の日実施) ⑤香美市食育ノートを活用し、食と健康とのかかわりを考える	①年3回以上、状況等を変えてできた(100%) ②各学年:年5～6時間以上できた(100%) ③家庭・地域と共にする ④お弁当の日に取り組むことができた(朝食を自分でできる5年100%、お弁当づくりに挑戦6年100%) ⑤「塩分」について新しく知ることがあった	①4回実施、②は達成 ③「自助」については非常持ち出し袋などについて2学期に学習済。2月には「共助」の学習で学校での宿泊避難所体験を実施予定 ④ごはん・みそ汁を作ることができる(5年100%、自分でお弁当を作る(6年100%)、朝ごはん摂取率ほぼ100% ⑤「スポーツドリンク」、「出汁による減塩効果」について学習するとともに保護者に対しても啓発できた(教育相談、PTAバザー)		①、②については本年度より実施する ③家庭・地域を巻き込んだ取組を継続する ④「味噌汁・炊飯」、「朝食」自分で作るお弁当づくり」の取組を継続する ⑤「塩分摂取」「食と健康」についての学習を継続して行う